

# 団長の独り言

「新しい歴史の1ページ」

鈴木千秋

「団長の独り言」をご覧の皆様、こんにちは。公演後の特別編として、団長の平野恒雄に代わり、お届けしてきた「団長の独り言」、今週は鈴木千秋が再登板いたします。よろしくお願いいたします。

2026年も新年度に替わる慌ただしい時期ですね、皆様いかがお過ごしでしょうか。劇団ふあんハウスは、1月、2月と公演が続き、新年度の公演に向けての準備もあり：2026年も序盤から飛ばしています。劇団メンバーとの打ち合わせも進んでいますし、ふあんハウス皆のチーム力で、さらに前進させていきたいと思っております。

さて、前回担当した「独り言」では、1月公演「夏の夜空へ 麻布公演」の中心に振り返りまりました。今回は2月28日(土)、港区西麻布にある霞町音楽堂で開催した、「演劇と音楽のパフォーマンスショー」について振り返ります。

1月の麻布公演を終えて間もなく、2月の「パフォーマンスショー

」に向けて稽古が始まりました。

この「パフォーマンスショー」は、これまでふあんハウスのお芝居で演奏された数々の名曲や、芝居の名シーン等を、劇団メンバーと、公募で集まった一般参加の方々が共に稽古し、そしてその成果を本番の舞台で発表するもので、音楽を中心に構成された「ライブショー」です。

劇団ふあんハウスにとってライブショー形式の舞台は、2011年2月の「エンターテイメントライブショー」以来、なんと15年ぶりのことでした。

ふあんハウスの過去の公演のことを調べていると、10年前・15年前・20年前：という言葉が出てくるようになりました。一公演ずつ劇団の歴史が積み重なっているのを実感し、これまでにたくさんの方の支え・協力があり、そして団長の牽引力が、ここまで続いていくということ、あらためて感じます。

今回のライブショーの準備稽古は、ふあんハウス公演の芝居の稽古では考えられないくらい短い期間、少ない稽古回数でした。

楽器の演奏、歌がメインのライブ

でしたので、楽器演奏や、歌、芝居など、各自が得意とするものや、稽古で作り上げたものを披露します。各自練習に励み、稽古場の合わせを行いました。しかしそれだけでは足りず、最終稽古を終えた翌日、急きよ自主稽古を行なうこととなり、その自主稽古に団長も緊急参戦されることになりました。そこで通し稽古を行ない、強化したい箇所を重点的に稽古することができました。

本番当日も過密なスケジュールでした。場当たりが押すことを見越して、舞台監督の高橋さんはスケジュールを生まれ、いよいよ本番当日を迎えました。

劇場に到着するなり荷物の搬入、音響の野中さんの機材や楽器のセッティング、会場の椅子や受付周りのセッティングなどがあり、サウンドチェック、場当たり、通し稽古、そしてあつという間に開場の時間となりました。開場するとお客様も続々とお越しになり、満員のお客様のなか、やがて本番が始まりました。

今回公募で集まってくれた皆様、皆様も、皆さん素晴らしい方も、勇気を出して応募してください、皆さん素敵なお演奏、歌、踊りを披露してくださいました。

団長が練られた構成と演出、そして私たちふあんハウスメンバーも、しっかりと支えて：

いや、むしろ音楽担当のピアノのアマティー(アマティアズ)と、ヴァイオリンのカブちゃん(株竹大智)を中心に、ふあんハウスバンド「ふあんハウス・シンフォニック」の生演奏と共演の皆様のおかげりました。

当日はまさに怒涛の一日ではありませんでしたが、皆で共に創り上げたステージは、かけがえのないものとなりました。

お芝居や歌、司会、制作のことなど、課題はいくつもあります。今回の「ライブショー」、一般参加の皆様にも、お客様にもお楽しみいただけよう、本当にありがとうございました。ありがとうございます。

劇団ふあんハウスの新たな歴史の1ページを紡いでいく一員として、これからも、ご来場の皆様と一緒に楽しんでいただけるステージにすべく精進してまいります。